



みんなで150周年に向かって！

川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像…素直な子】

令和6年 2月 1日 (木) No.13

狭山市立入間川小学校

〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9

TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 1 / 31 現在
491名

深いまとめに

校長 伊藤 秀一

あっという間に2月を迎えてしまいました。「1月行く。2月逃げる。3月去る」と言われますが、今年もやはり身をもって実感しています。3学期は学年のまとめの時期であり、今まさに各教室では各教科等のまとめを行っているところです。

ところで、「まとめ」は、漢字を用いると「纏め」と書きます。国語辞典（「広辞苑」岩波書店）には「纏める」で出ており、意味は①「ばらばらだったものを一つのまとまった状態にする」②「望ましい状態に成就させる。完成させる」とあります。学習のまとめは、②の意味に近いでしょうか。その学年の学びを望ましい状態に成就（完成）させる、ということになります。

しかし、ここで学びが完結するわけではありません。私はたびたびこの紙面で「主体的・対話的で深い学び」について取り上げております。詳細な内容の紹介については省かせていただきますが、「深い学び」について少し触れたいと思います。以前にも申しましたとおり、「主体的・対話的で深い学び」は、現行学習指導要領で求められている学びのスタイルです。文部科学省からは、「主体的な学び」「対話的な学び」については「このような学習の進め方が理想的である」と、具体的に例が示されていますが、「深い学び」については、具体的に示されていません。「深い学びのあり方こそ一番示してほしいですね」と先日他校の校長と意気投合したところです。

さて、ここからは私の勝手な解釈になりますが、「深い学び」には、二つの姿があると考えています。一つは「学びの連続性」つまり、学習が続く、あるいは繋がることで、もう一つは「学びの汎用性」つまり、学んだことが様々な場面で生かされることです。

たとえば、今学期に国語の学習で身に付いた説明文の読み方が、次の学期（学年）の説明文で学習課題を解決する際に生かされ、その中で新たな（より高度な）力を身に付け、さらにその次の学習に生かされる、ということが繰り返されるのが、学びの連続性です。

一方で、国語の学習で身に付いた説明文の読み方が、日常で薬の用法の説明書を読む際に生かされる、あるいは算数の学習で、問題文を読む際に生かされるなど、生活の中や他教科等に活用されるのが、学びの汎用性です。

各学年・各学級で進められている学習が、そこで完結することなく、次の学年（6年生は中学校）や他教科、さらには実生活で生かされるような「深いまとめ」となるよう、教職員一丸となって学年末に臨みたいと考えております。